高齢者の豊かな生活のために　　２０２４年３月１日発行

手 賀 沼 通 信（第３１２号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

今月は手賀沼通信ブログからの抜粋です。

手賀沼通信ブログ抜粋

アシナガバチの巣を駆除してもらった（ＮＯ．１７４１）（令和５年９月１４日）

２０２３年９月１３日蜂バスターズに依頼してわが家の庭にできていたアシナガバチの巣を駆除してもらいました。１００匹はいたと言われました。思わず身震いでした。

この夏になって我が家の庭に蜂がよく飛んでいました。毎年見かけていたのであまり気にしていなかったのですが、庭の手入れをしている妻から、今年は多いと聞かされました。一度追いかけられたので逃げたと言っていました。

９月１２日妻が庭に置いている道具入れの陰に蜂が出入りしているのを見かけました。どうもそこに巣があるのではないかと言うのです。

確かに部屋の網戸越しに見ていると、道具入れと敷居の間に２匹くらいの蜂が出入りしています。隙間が小さいのでよく見えません。小さな巣があるのではないかと考えました。ところが駆除の様子を見ると、白い箱の左側面に大きな巣が張り付いていました。

妻は業者に蜂の巣を取ってもらった経験のある長女に電話してそのいきさつを聞きました。我孫子市推薦の業者があるとのことで、妻がネットで調べて蜂バスターズに駆除を依頼したのです。

私は小さな巣なら蜂駆除用のスプレーで対処できるのではないかとウェルシアでスプレーを購入しました。スズメバチではなくアシナガバチとみていたのです。

でもあの蜂の大群をみたら自分でやらなくてよかった、業者に頼んでよかったと思っています。素人がやったら１０カ所以上は刺されたよと言われました。プロはしっかり防護服を着て刺されないようにしていました。

駆除料は１万２千円でしたが決して高くはないと思います。

終わった後巣のあった場所にハチ取りようの段ボールを残していきました。出かけている蜂が戻ってくるからです。翌朝見てみると２匹張り付いていました。

朝ドラ「らんまん」は面白かった（ＮＯ．１７４６）（令和５年１０月１日）

２０２３年９月２９日朝ドラ「らんまん」が終わりました。終わったのが残念でした。

牧野富太郎博士とその妻壽衛をモデルとしたドラマで槙野万太郎と妻寿恵子という名前で登場していました。朝ドラは通常女性が主人公となるケースが多いのですが、今回は珍しく男性が主人公でした。

槙野万太郎を演じたのは神木隆之介、寿恵子を演じたのは浜辺美波で私にとっては初めて見る俳優です。とても好感の持てる２人でした。

私は以前は朝ドラは見ていませんでしたが、最近になって熱心に見るようになりました。

「らんまん」は前回の「舞いあがれ」、前々回の「ちむどんどん」に比べても面白かったと感じています。好き嫌いは人によって違うので、あくまでも私個人の意見ですが、面白かった理由は以下のためだったのではないかと思います。

・モデルが日本植物学の大家で尊敬される人だったこと
・ドラマの脚本がふざけたところやわざとらしさがなく、まじめに人物を真正面にとらえていたこと
・主人公やその妻を演じた俳優が清潔感と初々しさにあふれていたこと
・花や自然の美しさを表す画面が多かったこと

など朝ドラにふさわしいものだったと思います。すがすがしい朝の１５分で、毎日次回を楽しみにしていました。

大谷選手がＭＬＢのアメリカンリーグのホームラン王に輝く（ＮＯ．１７４７）（令和５年１０月３日）

２０２３年１０月１日、米大リーグのレギュラーシーズンが終了し、４４本のホームランを打ったエンゼルスの大谷選手がアメリカンリーグのホームラン王になりました。

右ひじや腰のけがで最後の２７試合を欠場しましたが、２位のガルシアに５本の差をつける結果となりました。大リーグで日本人初のホームラン王です。

１昨年は４６本のホームランを打ちましたが、ホームラン王にはなれませんでした。それでも打者と投手での２刀流での活躍が評価され、ア・リーグのＭＶＰを獲得しました。今年もＭＶＰの最有力候補です。

今年はＷＢＣで優勝してＷＢＣのＭＶＰを獲得、ア・リーグのホームラン王となりました。

ＭＶＰを獲得すれば大谷にとって今までで最高の年だと言えるでしょう。ひじの手術も無事終わり、来年はシーズン初めから打者としての活躍が期待できます。

ありがとう！大谷選手、来年も頑張って！大谷選手。

将棋の藤井聡太さんが８冠を達成（ＮＯ．１７５０）（令和５年１０月１２日）

２０２３年１０月１１日、藤井聡太さんが王座戦で勝利し、２１歳２か月で将棋の全タイトル８冠を独占するという偉業を成し遂げました。史上初です。

藤井さんは２０１６年、史上最年少の１４歳２か月でプロ入りしました。そしてデビューから２９連勝するという歴代１位の記録を残しました。その後も次々と最年少記録を達成しました。

８冠を獲得するまでの歩みです。

年	タイトル	勝敗
・２０２０年	棋聖	３勝１敗
	王位	４勝０敗
・２０２１年	叡王	３勝２敗
	竜王	４勝０敗
・２０２２年	王将	４勝０敗

・２０２３年　棋王　３勝１敗
　　名人　４勝１敗
　　王座　３勝１敗

勝ち方が圧倒的な強さを示しています。２８勝６敗、勝率は８２.４％です。

８冠ということは先に獲得したタイトルも毎年防衛し続けているということです。今までに１８回タイトル戦に勝利し、合計６３勝１６敗の成績を上げました。その若さから今後どんな記録を残し続けるのでしょうか。楽しみは尽きません。

今年は翔平と聡太の年と言えるのではないでしょうか。

第２９回手賀沼エコマラソン（ＮＯ．１７５３）（令和５年１０月２９日）

２０２３年１０月２９日第２９回手賀沼エコマラソンが行われました。

昨年はコロナの中での３年ぶりの開催だったため、開会式や沿道での吹奏楽や太鼓の応援は自粛でしたが、今年はコロナ以前のスタイルに戻りました。

参加者は日本全国から約８５００人がエントリーしました。コースは柏市と我孫子市にまたがる手賀沼を一周するハーフマラソンです。

ただ前日までの好天と違ってあいにくの雨の中でのスタートとなりました。スタートから約１０分後に我が家の近くを通ります。例年通りカメラを持って応援に駆け付けました。

雨のせいか応援の人波はコロナ以前ほど多くはありませんでしたが、ランナーは皆さん元気よく走っていました。

市民ランナーの中には、以前は派手な被り物や衣装を着けたり、目立つ持ち物を持って走る人がいたのですが、今回も昨年同様普通のスタイルで静かに走っていました。お祭り騒ぎで走るのは禁止されたのでしょうか。

私も以前は応援の場所を替えて市民ランナーが戻ってくるまで写真を撮っていたのですが、そこまでお付き合いする体力と気力がなくなったため、家の近くで写真を撮って帰ってきました。

タイガース３８年ぶりの日本一おめでとう（ＮＯ．１７５５）（令和５年１１月６日）

２０２３年１１月５日、プロ野球日本シリーズで阪神タイガースがオリックスバファローズを７対１で破り、３８年ぶりの日本一を獲得しました。

関西シリーズと言われた今年の日本シリーズは、両チームの頑張りで３勝３敗で７戦までもつれました。おかげで大阪は大盛り上がり、全国に散らばる両チームのファンも３８年ぶりの日本一か２連覇かで期待が広がりました。大変面白い日本シリーズでした。

タイガースの岡田監督は、実力は言うまでもありませんが、強運の人です。

３８年前にはタイガースの選手でした。ペナントレースで巨人と闘った時のバックスクリーン３連発は今でも語り草になっています。１９８５年４月１７日甲子園球場で７回裏、阪神のクリーンアップのランディ・バース、掛布雅之、岡田彰布の３選手が巨人の槇原投手から連続でバックスクリーンにホームランを打ちました。私はテレビで見ていました。この年セリーグで優勝し、日本シリーズで西武を破って日本一になりました。

２００５年に阪神が優勝した時の監督は岡田監督でした。今年の優勝はそれ以来です。
タイガースの監督、選手、ファンの皆さん、日本一おめでとう。

おめでとう！大谷選手の2回目のＭＶＰ（ＮＯ．１７５８）（令和５年１１月１８日）

２０２３年１１月１６日、大谷選手がＭＬＢアメリカンリーグのＭＶＰに選ばれました。大谷選手は２年ぶり２度目のア・リーグのＭＶＰで、２回とも満票で選ばれたのは大リーグ初の快挙となりました。
大谷選手は現在エンゼルスからフリーエージェントとなっており、今後どのチームと契約するかが注目されています。同じロサンゼルスのナ・リーグのドジャースが最有力の移籍先と言われています。
けがの影響で９月３日を最後に欠場しましたが、それまでの成績はア・リーグホームラン王になるなど素晴らしいものでした。

打撃成績　ア・リーグ順位
・試合　１３５
・打率　.３０４　　４位
・本塁打　４４　　１位
・打点　９５　　１４位
・盗塁　２０　　２０位
・四球　９１　　５位
・ＯＰＳ（出塁率+長打率）　１.０６６　１位

投手成績
・登板　　２３
・勝敗　　１０勝５敗
・投球回数　１３２
・奪三振　　１６７
・防御率　　３.１４
・奪三振率　１１.３９
・被打率　　.１８４

二刀流として、２年連続２桁ホームラン、２桁勝利は大リーグ初の記録となりました。
大谷選手の地元奥州市では大盛り上がりです。
余談ですが大谷選手が岩手県奥州市、大リーグで活躍している菊池雄星投手が岩手県盛岡市、ロッテの完全試合の佐々木朗希投手が岩手県陸前高田市の出身です。野球選手と言えば関東より西の出身選手が有名でしたが、岩手県出身の選手が大活躍しているのは私にとって驚きでした。
閑話休題、大谷選手のさらなる活躍を祈っています。今度はワールドシリーズでのＭＶＰを期待しています。ガンバレ！　オオタニ　ショウヘイ

やったね！ヤング「侍ジャパン」（ＮＯ．１７５９）（令和５年１１月２０日）

２０２３年１１月１９日、「アジアプロ野球チャンピオンシップ２０２３」の決勝戦で、日本の若き「侍ジャパンは」韓国に４－３で勝ち、アジアーとなりました。前回の２０１７年大会に続いての連覇となりました。
この大会の参加資格は２４歳以下か入団３年以内の選手で、オーバーエイジ枠として２９歳以下の選手３人がメンバーとして認められます。
日本チームは将来の「侍ジャパン」のメンバーとなりうる有望若手が選ばれました。新たに「侍ジャパン」の監督となった井端監督が指揮を執りました。
参加チームは、日本、韓国、台湾、オーストラリアの４か国です。まず総当たり制で各チームが対戦し、１位と２位のチームが決勝戦を戦います。日本は総当たり戦で３勝し、決勝戦は再度韓国と闘いました。
決勝戦は韓国が２点を取って先行しましたが日本が追いつき、タイブレークの延長戦となりました。延長戦はノーアウト、ランナー１，２塁で始まります。
１０回表韓国が１点を取りますが、その裏日本が１点を返した後、ツーアウト満塁で、門脇選手（巨人）がサヨナラヒットを打って劇的な勝利を収めました。無敗のアジアーとなりました。
ＭＶＰには門脇選手が選ばれましたが、全体を通してしてみると、日本の強さは投手陣にありました。総当たり戦での失点は韓国に１点取られただけ、決勝戦でも１０回で３失点でした。日本の強さの伝統はここでも実証されました。今後のＷＢＣがたのしみです。
やったね！ヤング「侍ジャパン」